【奈良県】

奈良県立商業高等学校

部局たまつえ

高校生ボランティア・アワード2023

桜井市立図書館とコラボ
「未完成カフェ+」オープン！

活動概要

昨年度、総合ビジネス科の私たちが『実学』の授業で、自分たちの周りにある解決したい社会課題について考えました。それらを解決するために「自分たちに何ができるか」を考え、たどり着いたテーマが「地域コミュニティの再生と異世代交流」です。そして地域活性化に取り組む部活動「部局たまつえ」とタッグを組み、桜井市立図書館とのコラボ企画を考えました。

名前の由来

『未完成カフェ+』という名前にしたのは、これから新たに始めることで、地域の皆さんと作り上げていきたいという思いからです。「本のあるみんなの居場所」としてリラックスして過ごせる空間、生活の中の小さな「あったらいいな」を図書館に取り入れる。そして図書館が地域のプラットフォームとしてコミュニティを育む場となり、さまざまな年代の方が集える場となればと考えています。

カフェだけでなく、スマホ教室や読み聞かせ、お客様の需要に応じた販売実習などさまざまなイベントを同時開催し、多くの人が集える場になるよう趣向を凝らします。

図書館打ち合わせ

お互いさんの玉ねぎ

販売の様子

商品提案プレゼン

「地域コミュニティの再生」と「異世代交流」

「課題発見力」と「対話力」

今世の中にあふれている社会課題を考えたとき、表面的な部分だけでなく本質的な課題を見つけることが大切だと思います。そして自分の考えや思いを伝えること、また相手の話に耳を傾けることも大切です。今回、この図書館とのコラボイベントを企画するうえで、地域の方にアンケートを実施しどうすればみんなが集まる場所になれるかも検討しました。

そして毎回来場された方に講評していただきながら、改善点を洗い出し、みんなで居心地のいい場所をつくっていきたいと思います。

少子高齢化	ごみ処理問題	特殊詐欺	買い物難民
動物虐待	食品ロス	貧困	誹謗中傷
教育格差	ネットリテラシー	LGBTQ	商店街活性化
自殺者増加	心の病気（不登校含む）	偏食	ヤングケアラー

「初回から予想外の大盛況！」 当日の様子（令和5年5月27日実施）

◎　販売ブース　◎

今回は「地元の採れたて野菜」「全国の高校生が作った商品を集めた高校生物産展」「ご当地ラーメン」「縁日」を行いました。準備中に、学校の向かいにある「デイサービスおたがいさん」のおじいちゃん、おばあちゃんが丹精込めて作った玉ねぎを届けてくださいました。

「高校生物産展」はスーパーでは見かけない珍しい商品に興味津々。「この企画は面白い！」と大絶賛。頑張る高校生を応援したいとたくさんのお声がけを頂きました。

「縁日」は未就学児や小学生で大賑わい。「このイベント何で知ったの？」との問いかけに、「小学校で先生が朝の会で紹介してくれた！」と何とも有難いお言葉が…。気付かないところで地域連携の輪が広がっているのを感じました。

◎　ワークショップ　◎

「スマホ教室」「防災コーナー」「英語多読教室」の３本立てで行いました。「スマホ教室」は高齢者や小学生など来られた方の質問にこたえる個別対応型で実施しました。高齢者の方が入ってこられ、「通知音が鳴らなくなった」「撮った写真が消えた」など困りごとを解決しながら雑談をしました。

「防災コーナー」では、震災時にトイレ関連で困ったという記事をみたため、今回はそのことをポスターで掲示し、来場された方に『携帯トイレ』をプレゼントしました。また、本校が開発した『防災備蓄パン県商バージョン』を紹介しました。

「英語多読教室」には、専門の講師の先生をお招きし老若男女問わず気軽に参加していただき英語に触れていただきました。

毎月１回開催するため、『次回のポスターはあなたが決める！』と次号ポスター案を掲示し、来場者に投票していただきました。こうすることで、次回の予告もでき、市民も参加することが出来るのではないでしょうか。

さらには、フードドライブのコーナーも設置し、事前にチラシで告知していたため、協力して下さる方もいました。

◎　カフェコーナー　◎

「未完成カフェ」を開催するにあたり、保健所に相談に行きました。すると「何の資格も持たない私たちは、紙コップにコーヒーを注ぐだけでもダメ。文化祭の模擬店のように自分たちでできるのは、年に２回に限定される」と教えていただきました。既製品を注ぐこともできないとなると、カフェを中止にするしかない？でもそうすると、もともとのコンセプトが崩れてしまう…。そこでいろいろな方法を模索し、今回は、紙パックのジュースと市内にあるフローベルさん（巽製粉株式会社）の焼き立てパンを提供しよう。それなら物販扱いになるから、無資格の私たちでもできる。来られたお客様には、事情も含めて話をしようと意見がまとまりました。

当日、お客様から「思っていたカフェのイメージと違ったけど、皆さんから話を聞いて納得しました。本当に未完成ですね！でも今後どのように発展されるか楽しみにしています」など温かいお声をいただきました。

ワークショップの新しいコンテンツ
「対話型美術鑑賞」 ～DNP大日本印刷様との連携～

私たちの取り組みを知り、DNP大日本印刷株式会社様が「対話型美術鑑賞」をワークショップに取り入れてみようとご協力いただけることになりました。美術の知識は不要で、絵を見ながらみんなでお話をします。学校に来校して下さり、私たちがコーディネーターとしてワークショップの進め方や、対話型美術鑑賞で得られる効果など分かりやすく講義してくださいました。自分の気持ちや考えを文章にして話すため、高齢者の認知症予防や、コミュニケーション力向上のワークショップとして今注目を集めています。

イベント当日の感想では、「自分の気付かなかったことが見えた」「いろいろな見方が分かって楽しかった」「面白い企画。次もまた参加したい」「高校生の視点は面白い」など非常にみなさん楽しんでいただけたようです。

サードプレイス（第3の居場所）を作る

みなさんにとって「ふるさと」とは何ですか？生まれ育った町、それともおじいちゃんやおばあちゃんが住んでいる所…。人によってそれは違うのかもしれません。

今回『地域コミュニティの再生と異世代交流』をテーマに取り組んでいますが、この桜井市立図書館が桜井市民の『サードプレイス』になって欲しいのです。自宅や学校・職場以外に居心地のいい場所になり、新しい価値観や人とのつながりを得ることができる。疲れたときにふと立ち寄れる場所、そんな心のふるさとを作りたい。私たち自身も、そういう居場所を作れたら、きっとこの経験が今後に大きく生きて、何かあったときに高校時代を振り返り、思い出すことのできる場所がある。その時、心のふるさとがその一歩を軽くするのではないかと思います。

今後さらに、地域のローカルプレイヤーがつながることで、さらに多くのアイデアが集まり、地域をデザインすることができると考えています。みんなの居場所、心のふるさとがこの桜井市になれるように、これからも頑張っていきます。

奈良県立商業高校は令和３年４月に１期生が入学しました。総合ビジネス科と部局たまつえが一緒になって、この『未完成カフェ＋』に取り組んでいます。

現在、総合ビジネス科の３年生はカフェでドリンクと一緒に提供するスイーツの商品開発に取り組んでいます。10グループに分かれ、市内の企業と連携しています。

部局たまつえでは、毎月違う楽しみを提供するためワークショップを月替わりで考えています。父の日イベントや高齢者の認知症予防に対話型美術鑑賞、絵本のひろばや面展台づくりなど専門の先生に教えていただきながら実施していきます。さまざまな世代の方に楽しんでいただけるよう、そして交流をもっていただけるようみんなでイベントを企画し盛り上げていきます！